３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
４月	**よく聞いて、じこしょうかい** １時間（話・聞①） ○相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ○話し手が伝えたいことの中心を捉えることができる。（思・判・表A(1)エ） ■自己紹介をする。 ☆楽しい学級づくり（特別活動）	1	1　扉の詩を読み、目次やP5「国語の学びを見わたそう」を見て、国語学習の見通しをもつとともに、学習の進め方を確かめる。 2　P13を読み、３年生の国語学習での目標や楽しみなことを書く。 3　P14-15を読んで活動の流れを確かめ、自分の「すきなもの」を一つ考えて、前の人の話を繰り返しながら、順番に紹介し合う。 4　友達の好きなものを聞いた感想を伝え合う。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。((1)イ) 【思・判・表】「話すこと・聞くこと」において、話し手が伝えたいことの中心を捉えている。（A(1)エ） 【態】積極的に相手を見て話したり聞いたりし、学習課題に沿って自己紹介をしようとしている。
４月	**どきん** １時間（読①） ◎文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■詩を楽しんで音読する。	1	1　「どきん」を読み、詩の特徴を確認する。 2　言葉の調子を楽しみながら、音読の練習をする。 ・行末の擬声語や擬態語に注意する。 3　音読を聞き合い、読み方を工夫したところを伝え合う。 4　学習を振り返る。 ・音読をして感じた楽しさをノートに書く。 ・「この本、読もう」で、詩集を読み広げることに関心をもつ。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】積極的に文章全体の構成や内容の大体を意識し、学習課題に沿って楽しんで詩を音読しようとしてい
４月	**わたしのさいこうの一日** **つづけてみよう** １時間（書①） ○相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使うことができる。（知・技(1)オ） ■想像を広げて架空の日記を書く。	1	1　「さいこうの一日」の日記を書くことを確認し、したいことや起こってほしいことを書き出 2　「さいこうの一日」の日記を書く。 3　書いた日記を読み合い、感想を伝え合う。 4　P20「つづけてみよう」を読み、年間を通した継続的な活動に取り組む意欲をもち、ノートの書き方について学ぶ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、文章の中で使っている。((1)オ) 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】経験したことや想像したことなどから書くことを進んで選び、学習課題に沿って架空の日記を書こうとしている
４月	**登場人物の気持ちをたしかめ、そうぞうしたことをつたえ合おう**			
	春風をたどって ８時間（読⑧） ◎様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ◎登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)イ） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ■読んで想像したことを伝え合う。 ☆自然のすばらしさや不思議さを感じ取り、自然や動植物を大切にする心を育てる題材（道徳）	1 2〜6 7〜8	1　学習の見通しをもつ。 ・P21を見て、どのような物語なのかを想像する。 ・教材文を読み、「といをもとう」「もくひょ 2　四つの場面での「ルウ」の行動を確かめながら音読する。 3　「ルウ」の気持ちが分かる言葉を見つけ、ノートに書く。 ・P32「言葉に着目しよう」を参考にして、「ルウ」の気持ちが分かる言葉をまとめる。 4　「ルウ」の気持ちの変化を具体的に想像し、ノートにまとめる。 5　物語の続きを想像し、ノートに書く。 6　友達の書いたものを読み、感想を伝え合う。 7　学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。((1)オ) ・文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。((1)ク) 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉えている。（C(1)イ） 【態】進んで、登場人物の行動や気持ちなどについて叙述を基に捉え、学習課題に沿って想像したことを伝え合おうとしている。
４月	**図書館たんていだん** １時間（知・技①） ◎読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ■図書館の地図を作り、本を探す。 ☆図書館の配架を知る活動（図書館活用）	1	1　P35の写真を参考にして、学校図書館の工夫を考える。 2　P36を読み、図書館では内容ごとに本が分類され並べられていることを知る。 3　学校図書館に行き、本の分類を理解する。 ・グループで学校図書館の地図を作り、棚ごとにどのような種類の本があるのかを調べる。 ・読みたい本や必要な本を、紹介コーナーや棚の番号などで探す。 ・読書記録のつけ方を知る。	【知・技】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。((3)オ) 【態】読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことを積極的に知り、学習課題に沿って学校図書館の工夫について調べようとしている。
４月	**国語辞典を使おう** ２時間（知・技②） ◎辞書の使い方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ☆考えをまとめる活動などの漢字の確かめ（総合的な学習の時間など）	1〜2	1　国語辞典を使うときについて考える。 ・「問いをもとう」を基に、どのようなときに国語辞典を使うのかを考える。 2　国語辞典の見方を理解する。 ・国語辞典を開いたり、P38の二次元コードを参考にしたりして、「国語辞典のれい」の内容を	【知・技】辞書の使い方を理解し使っている。((2)イ) 【態】進んで辞書の使い方を理解し、学習課題に沿って国語辞典を使おうとしている。

３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
			3 見出し語の見つけ方を理解する。 ・国語辞典では、どのような決まりで言葉が示されているかを知る。 4 言葉の意味を調べる。 ・P40の設問に取り組み、示されているいろいろな語を辞書で引く。 ・調べて分かった意味をノートにまとめる。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	
４月	**漢字の広場①** ２時間（書②） ◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す 2 P41を見て、動物や人の様子や、行動について説明する。 3 提示されている漢字を使って、動物園の様子を文に書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	【知・技】第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
４月	**春のくらし** ２時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■春を感じたことについて、文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆春を感じたものの撮影（ＩＣＴ活	1 2	1 「みどり」を読み、生活の中で春らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた春を感じたものについて書 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、話や文章の中で使い、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
５月	**知りたいことを考えながら聞き、しつもんしよう**			
	もっと知りたい、友だちのこと **【コラム】きちんとつたえるために** ６時間（話・聞⑥） ◎相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話すことができる。（知・技(1)イ） ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。（思・判・表A(1)エ） ○目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選ぶことができる。（思・判・表A(1)ア） ■知らせたいことを話したり、知りたいことを質問したりする。 ☆友達の新たな一面やよさを知る活動（特別活動、道徳）	1 2 3 4～6	1 学習の見通しをもつ。 ・友達のことを知るために、グループになって話を聞き合う方法を知る。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 友達に知らせたいことを決めて、ノートに書く。 ・友達に知らせたいことを箇条書きでノートに 3 話の聞き方や質問のしかたについて確かめる。 ・P45「しつもんのしゅるい」を参考にして、質問の種類や話の聞き方を整理する。 4 友達の話を聞いて、質問する。 ・P46の二次元コードから、聞き方や質問のしかたのよいところを考える。 ・聞き手は、話の中心に気をつけて聞き、自分が特に知りたいことをはっきりさせ、質問を考える。 ・大事なことを落とさないように質問したり、答えたりする。その際、P48「きちんとつたえる 5 どのような質問で話が広がったり、友達のことがよく分かったりしたかを伝え合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で、単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。その際、P148「インタビュー」を参考にしてもよい。	【知・技】相手を見て話したり聞いたりするとともに、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意して話している。（(1)イ） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、伝え合うために必要な事柄を選んでいる。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもっている。（A(1)エ） 【態】粘り強く話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、学習の見通しをもって話したり、質問したりしようとしている。
５月	**漢字の音と訓** ２時間（知・技②） ◎第３学年までに配当されている漢字を読むことができる。（知・技(1)エ）	1～2	1 漢字の「音」と「訓」の特徴を理解する。 ・P150「これまでに習った漢字」を使うなどして、既習の漢字の音と訓を確かめる。 2 音と訓の使い分けを練習する。 ・P51の設問に取り組む。	【知・技】第３学年までに配当されている漢字を読んでいる。（(1)エ） 【態】進んで第３学年までに配当されている漢字を読み、学習課題に沿ってよりよく漢字を学ぼうとして
５月	**漢字の広場②** ２時間（書②） ◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ○接続する語句の役割について理解す	1～2	1 提示されている漢字の読み方、書き方を確認す 2 P52を見て、宝物を探しに出かけた男の子の話を簡単に考える。 3 「そこで」「けれども」など接続詞の使い方を確認する。 4 提示されている漢字を使って、文を書く。	【知・技】 ・第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） ・接続する語句の役割について理解している。（(1)カ）

３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	ることができる。（知・技(1)カ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		5　書いた文を友達と読み合う。	【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
５月	**まとまりをとらえて読み、かんそうを話そう**			
	文様 **こまを楽しむ** **【じょうほう】全体と中心** ８時間（知・技①、読⑦） ◎全体と中心など情報と情報との関係について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えることができる。（思・判・表C(1)ア） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ■説明する文章を読み、感想を伝え合う。 ☆伝統や文化を知り、歴史を愛する題材（道徳）	1〜2 3〜6 7〜8	1　学習の見通しをもつ。 ・P53を見て、文様やこまについて知っていることを発表し合う。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2　「文様」の構成を捉える。 ・P160を参考に「問い」と「段落」の意味を理解する。 ・「問い」に書かれていることを確かめる。 ・「問い」の「答え」に当たる部分はどこかを考えながら音読する。 ・文章全体の「まとめ」にあたる段落を確かめる。 3　「こまを楽しむ」の構成を捉える。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習のめあてを確かめる。 ・文章の中の「問い」を二つに分けて、ノートに書く。 ・段落に番号を付けて、「はじめ」「中」「おわり」のまとまりに分ける。その際、P65「全体と中心」を参考にするとよい。 ・「中」に書かれている「問い」に対する「答え」を確かめ、ノートに整理する。 ・「中」には、「答え」の他にどのようなことが書かれているかを確かめ、そのことが書かれている理由を考える。 ・「おわり」に書かれていることを確かめ、その役割を考える。 4　遊んでみたいこまについて、ノートにまとめる。 ・六つのこまの中から、いちばん遊んでみたい 5　いちばん遊んでみたいこまについて、グループで話し合う。 ・友達の感想との共通点や相違点など、気づいたことをノートに書く。 6　学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】 ・段落の役割について理解している。（(1)カ） ・全体と中心など情報と情報との関係について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、段落相互の関係に着目しながら、考えとそれを支える理由や事例との関係などについて、叙述を基に捉えている。（C(1)ア） ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） 【態】進んで段落相互の関係に着目しながら内容を捉え、学習課題に沿って説明する文章を読んだ感想を伝え合おうとしている。
６月	**相手に分かりやすいように、あんないの手紙を書こう**			
	気持ちをこめて、「来てください」 ４時間（書④） ◎丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書くことができる。（知・技(1)キ） ◎間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ○言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づくことができる。（知・技(1)ア） ■行事を案内する手紙を書く。 ☆時と場に応じた適切な手紙を書く活動（社会、総合的な学習の時間）	1 2〜3 4	1　学習の見通しをもつ。 ・運動会や学習発表会などの、誰かに見に来てほしい行事や、手紙を送りたい相手を想起する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2　手紙を送る相手を決め、伝えることをメモに整理する。 ・日時、場所、行事の説明、気持ちなど、行事を案内するときに何を書くとよいかを考える。 3　P68「土川さんの手紙」を読み、手紙の組み立てを確かめる。 4　組み立てに沿って手紙を書き、読み返す。 ・P68「あんないの手紙を読みかえすときは」を参考にして文章を整える。 ・書き終わったら、声に出して読み返し、確かめる。 5　手紙を届ける。 ・郵便で送る場合は、住所と宛名を書く。その際、P147「手紙を送ろう」を参考にするとよ 6　学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気づいている。（(1)ア） ・丁寧な言葉を使うとともに、敬体と常体との違いに注意しながら書いている。（(1)キ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】粘り強く、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整え、学習の見通しをもって行事を案内する手紙を書こうとしている。
６月	**漢字の広場③**	1〜2	1　提示されている漢字の読み方、書き方を確認す	【知・技】第２学年までに配当され

３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	２時間（書②） ◎第２学年までに配当されている漢字を書き、文や文章の中で使うことができる。（知・技(1)エ） ・間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることができる。（思・判・表B(1)エ） ■絵を見て想像したことを基に文を書く。		2 P70を見て、日曜日の出来事と家の人の今週の予定を簡単に考える。 3 提示されている漢字や時を表す言葉を使って、文を書く。 4 書いた文を友達と読み合う。	ている漢字を書き、文や文章の中で使っている。（(1)エ） 【思・判・表】「書くこと」において、間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えている。（B(1)エ） 【態】積極的に第２学年までに配当されている漢字を書き、これまでの学習をいかして、漢字を適切に使った文を作ろうとしている。
６月	**登場人物のへんかに気をつけて読み、すきな場面について話し合おう**			
	まいごのかぎ ６時間（読⑥） ◎登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ○様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ■物語を読んで、好きな場面について話し合う。	1 2〜4 5 6	1 学習の見通しをもつ。 ・P71を見て、物語の内容を想像する。 ・教材文を読み、「問いをもとう」「もくひょう」を基に学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 「まいごのかぎ」を場面に分ける。 ・場所や出来事に気をつけて読み、場面分けする。 ・各場面での出来事や、そのときの「りいこ」の気持ちをまとめる。 3 物語の最初と最後で「りいこ」にどのような変化があったのかを考える。 ・「りいこ」の言動を表す言葉に着目して、不思議な出来事に対する「りいこ」の考え方や気持ちをまとめる。 4 好きな場面とその理由をノートに書く。 ・「りいこ」の変化との関わりを考えながら、ノートにまとめる。 5 好きな場面を友達と伝え合い、自分の考えとの共通点や相違点を話し合う。 6 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	【知・技】様子や行動、気持ちや性格を表す語句の量を増し、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】登場人物の気持ちの変化について、進んで場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像し、学習課題に沿って物語の好きな場面について話し合おうとしている。
６月	**俳句を楽しもう** １時間（知・技①） ◎易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しむことができる。（知・技(3)ア） ■俳句を音読する。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆五音と七音を組み合わせた詩などを探す活動（図書館活用）	1	1 俳句の決まりを知る。 ・俳句は、「５・７・５」の17音で作られていることや季語があることを確認する。 2 俳句を声に出して読む。 ・どこで区切るかを考えたり、音のリズムを確かめたりして、言葉の響きや調子を楽しむ。 ・P92の二次元コードから音声を聞くのもよい。 3 気に入った俳句を音読したり暗唱したりする。 4 P93を読み、身の回りの五音と七音を組み合わせた詩や歌を探す。 5 探した詩や歌を友達と見せ合う。	【知・技】易しい文語調の俳句を音読したり暗唱したりするなどして、言葉の響きやリズムに親しんでいる。（(3)ア） 【態】進んで言葉の響きやリズムに親しみ、学習課題に沿って俳句を音読したり暗唱したりしようとしている。
６月	**こそあど言葉を使いこなそう** ２時間（知・技②） ◎指示する語句の役割について理解することができる。（知・技(1)カ）	1〜2	1 「こそあど言葉」を知る。 ・「問いをもとう」を基に、生活の中でうまく伝わらなかったことを想起する。 ・「こそあど言葉」には、相手との距離や目的などによって、使い分けがあることを理解する。 ・P95の設問１に取り組む。 2 「こそあど言葉」を使うことで、文をより簡潔に表現できるようになることを理解する。 3 P95の設問２・３に取り組み、「こそあど言葉」が指す語句を考えたり、短い文章を作ったりする。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかした場面を考える。	【知・技】指示する語句の役割について理解している。（(1)カ） 【態】積極的に指示する語句の役割について理解し、学習課題に沿って使おうとしている。
６月	**【じょうほう】引用するとき** ３時間（知・技①、書②） ◎引用のしかたや出典の示し方を理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ・自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■本などから調べたことを書き留め、引用して文章を書く。 ☆調べたことを文章にまとめる活動（社会など）	1〜3	1 「引用」を知る。 ・P96を参考に、本などから調べたことを報告する際は、自分の考えと区別しなくてはならないことを理解する。その際、P160「学習に用いる言葉」を確かめる。 2 「引用」の決まりを理解する。 ・文章の中で引用する際の決まりを確かめる。 ・出典の示し方を理解し、それが奥付にまとめられていることを知る。 3 P56「こまを楽しむ」から引用して、興味をもったこまとその遊び方を紹介する文章を書き、友達と読み合う。 ・「いかそう」を読み、学んだことをいかしたい場面を考える。	【知・技】引用のしかたや出典の示し方を理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】積極的に引用のしかたや出典の示し方を理解し使い、学習課題に沿って本などから調べたことを引用して文章を書こうとしている。
７月	**つたえたいことをはっきりさせて、ほうこくする文章を書こう**			

３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	仕事のくふう、見つけたよ **【コラム】符号など** 10時間（書⑩） ◎相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ○改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打つことができる。（知・技(1)ウ） ○段落の役割について理解することができる。（知・技(1)カ） ○自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫することができる。（思・判・表B(1)ウ） ■調べたことを報告する文章を書く。 ☆調べたいことを決めて、調査を行い、報告する文章にまとめる活動（社会、総合的な学習の時間） ☆調べる仕事についての本を探す活動（図書館活用） ☆見つけた工夫の撮影（ＩＣＴ活用）	1〜2 3〜6 7〜9 10	1 学習の見通しをもつ。 ・大人になったらしたい仕事を話し合い、そこにはどのような工夫があるかを想像する。 ・「問いをもとう」「もくひょう」を基に、学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 身の回りにある仕事の中から、調べてみたい仕事を選ぶ。 3 仕事について調べ、伝えることを選ぶ。 ・興味のある仕事について、本を読んだり、見学をしたり、インタビューをしたりして調べる。 ・調べて分かったことはメモをする。 ・P99「つたえることをえらぶときは」やP100「土川さんのメモ」を参考にするなどして、特に伝えたいことは何かを考え、読み手のことを意識して伝えることを選ぶ。 4 報告文の組み立てを考える。 ・P100を参考に、伝えたいことを内容のまとまりに分けて整理する。 5 報告文を書く。 ・P101の文章や二次元コードを参考にし、気をつけることを確認してから書き始める。 ・句読点などの使い方などにも注意して書く。その際、P103「符号など」を参考にするとよい。 6 報告文を友達と読み合い、感想を伝え合う。 ・報告文の書き方や印象に残ったことなどについて伝え合う。 7 学習を振り返る。 ・「ふりかえろう」で単元の学びを振り返るとともに、「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえる。	【知・技】 ・改行のしかたを理解して文や文章の中で使うとともに、句読点を適切に打っている。（(1)ウ） ・段落の役割について理解している。（(1)カ） 【思・判・表】 ・「書くこと」において、相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） ・「書くこと」において、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして、書き表し方を工夫している。（B(1)ウ） 【態】進んで相手や目的を意識して書くことを選び、伝えたいことを明確にし、学習の見通しをもって調べたことを報告する文章を書こうとしている。
７月	**夏のくらし** ２時間（書②） ◎語句の量を増し、話や文章の中で使うとともに、語彙を豊かにすることができる。（知・技(1)オ） ○経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏を感じたことについて文章に書く。 ☆我が国の伝統と文化に対する理解と愛情を養う題材（道徳） ☆夏を感じたものの撮影（ＩＣＴ活用）	1 2	1 「はなび」を読み、生活の中で夏らしさを感じることを挙げる。 ・教科書の言葉や絵から知っていることを発表したり、連想する言葉を出し合ったりする。 2 身の回りで見つけた夏を感じたものについて、ノートに書く。 3 書いた文章を友達と読み合い、感想を交流する。	【知・技】語句の量を増し、文章の中で使うとともに、語彙を豊かにしている。（(1)オ） 【思・判・表】「書くこと」において、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】積極的に語句の量を増し、話や文章の中で使い、学習課題に沿ってその季節らしさを表現した文章を書こうとしている。
７月	**本は友だち**			
	本で知ったことをクイズにしよう **鳥になったきょうりゅうの話** ５時間（読⑤） ◎幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づくことができる。（知・技(3)オ） ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づくことができる。（思・判・表C(1)カ） ■図鑑や科学読み物を読んで、クイズを出し合う。 ☆本を選んで読む活動（図書館活用）	1 2 3〜5	1 学習の見通しをもつ。 ・本から新しい知識を得た経験を想起する。 ・学習課題を設定し、学習計画を立てる。 2 本の読み方について考える。 ・どんな本を、どのように読んでいるかを友達と話し合う。 ・P160を見るなどして、索引の使い方を理解する。 3 P108を参考に、図鑑や科学読み物などの本の種類について知る。 4 「鳥になったきょうりゅうの話」を読み、初めて知ったことを伝え合う。 5 本を選んで読み、クイズ大会を開く。 ・「この本、読もう」などを参考にして本を選んで読む。 ・驚いたことや友達が知らないと思うことなどからクイズを考え、友達と出し合う。 6 学習を振り返る。 ・「読書に親しむために」で、本の読み方を押さえる。	【知・技】幅広く読書に親しみ、読書が、必要な知識や情報を得ることに役立つことに気づいている。（(3)オ） 【思・判・表】「読むこと」において、文章を読んで感じたことや考えたことを共有し、一人一人の感じ方などに違いがあることに気づいている。（C(1)カ） 【態】進んで幅広く読書に親しみ、学習課題に沿って本で知ったことをクイズにしようとしている。
９月	**わたしと小鳥とすずと** **夕日がせなかをおしてくる** ２時間（読②） ○文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読することができる。（知・技(1)ク） ○登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像することができる。（思・判・表C(1)エ） ■詩を読んで、思ったことや感じたこ	1〜2	1 二つの詩を音読する。 ・連ごとに様子を思い浮かべながら音読する。 2 「わたしと小鳥とすずと」を読み、どうして「わたし」は「みんなちがって、みんないい。」と言っているのかを考え、話し合う。 3 「夕日がせなかをおしてくる」を読み、誰が、どのように「さよなら」を言っているのかを考え、話し合う。 4 連と連の関係を考えながら二つの詩を読み、気づいたことや考えたことを話し合う。	【知・技】文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読している。（(1)ク） 【思・判・表】「読むこと」において、登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わりと結び付けて具体的に想像している。（C(1)エ） 【態】進んで文章全体の構成や内容の大体を意識しながら音読し、学習課題に沿って詩を読んで思ったこと

３年上巻

月	単元名・教材名・時数・指導目標	時	主な学習活動	評価規準
	とを話し合う。		5　学習を振り返る。 ・「この本、読もう」で読書への意欲をもつ。	や感じたことを話し合おうとしている。
９月	**こんな係がクラスにほしい** ３時間（話・聞③） ◎考えとそれを支える理由や事例について理解することができる。（知・技(2)ア） ◎目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることができる。（思・判・表A(1)オ） 〇目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりすることができる。（思・判・表A(1)ア） ■グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ☆係活動における話し合い（特別活動）	1〜2 3	1　クラスの係活動を振り返り、新しく作りたい係を考える。 ・思いついた係や仕事を付箋に書き出す。 2　グループで話し合い、考えを整理してまとめる。 ・理由と目的を出し合い、質問するなどして考えを広げる。 ・目的や仕事内容に分けて付箋に書き、話し合ったことを整理する。 3　グループで話し合ったことを発表する。 ・それぞれのグループの発表を聞いて、感想を伝え合う。 4　学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】考えとそれを支える理由や事例について理解している。（(2)ア） 【思・判・表】 ・「話すこと・聞くこと」において、目的を意識して、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を比較したり分類したりしている。（A(1)ア） ・「話すこと・聞くこと」において、目的や進め方を確認して話し合い、互いの意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめている。（A(1)オ） 【態】進んで互いの意見の共通点や相違点に着目して考えをまとめ、学習の見通しをもってグループで話し合い、考えを整理してまとめようとしている。
９月	**ポスターを読もう** ２時間（読②） ◎文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもつことができる。（思・判・表C(1)オ） 〇比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） 〇目的を意識して、中心となる語や文を見つけることができる。（思・判・表C(1)ウ） ■ポスターを読み比べて、考えたことを伝え合う。	1 2	1　身の回りには、どのようなポスターがあるのかを想起する。 2　P124「ポスターのれい」を見て、工夫しているところを話し合う。 ・「キャッチコピー」について、P160「学習に用いる言葉」で確認するとよい。 3　P126-127の(ア)(イ)のポスターを比べて読む。 ・どちらのポスターのほうがお祭りに行きたくなるか、理由とともに友達と話し合う。 ・二つのポスターを比べて、共通点や相違点をノートに整理する。その際、整理のしかたはP163「図を使って考えよう」を参考にしてもよい。 ・ポスターが作られた目的や知らせたい相手を考えて、なぜ相違点があるのかを話し合う。 4　学習を振り返る。 ・「たいせつ」で身につけた力を押さえる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】 ・「読むこと」において、目的を意識して、中心となる語や文を見つけている。（C(1)ウ） ・「読むこと」において、文章を読んで理解したことに基づいて、感想や考えをもっている。（C(1)オ） 【態】文章を読んで理解したことに基づいて、進んで感想や考えをもち、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。
９月	**書くことを考えるときは** ２時間（書②） ◎比較や分類のしかたを理解し使うことができる。（知・技(2)イ） ◎相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることができる。（思・判・表B(1)ア） ■夏休みの思い出を書く。	1〜2	1　図を使って考えを広げることを知る。 ・中心にテーマを書き、線でつなぎながら考えを広げる。 2　書くことを選ぶ。 ・相手や目的を意識して書くことを選ぶ。 3　選んだことを基に文章に書く。 4　文章を友達と読み合う。 ・図を見ながら、どのようにして書くことを選んだのかを伝え合う。 5　学習を振り返る。 ・「たいせつ」「いかそう」で身につけた力を押さえ、この後の「書くこと」単元でも活用することを確かめる。	【知・技】比較や分類のしかたを理解し使っている。（(2)イ） 【思・判・表】「書くこと」において、相手や目的を意識して、経験したことや想像したことなどから書くことを選び、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にしている。（B(1)ア） 【態】粘り強く集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にし、学習課題に沿って夏休みの思い出を書こうとしている。
９月	**漢字の組み立て** ３時間（知・技③） ◎漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解することができる。（知・技(3)ウ）	1〜3	1　「へん」「つくり」を知る。 ・P130を参考に、２枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P131の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。 2　「へん」「つくり」以外の漢字の組み立てを知る。 ・P132を参考に、２枚のカードを組み合わせて漢字を作る。 ・P133の設問に取り組み、国語辞典などで確かめる。	【知・技】漢字が、へんやつくりなどから構成されていることについて理解している。（(3)ウ） 【態】漢字がへんやつくりなどから構成されていることについて粘り強く理解し、学習課題に沿って漢字の構成を捉えようとしている。
９月	**ローマ字** ４時間（知・技④） ◎日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書くことができる。（知・技(1)ウ） ☆ローマ字入力（ＩＣＴ活用）	1〜3 4	1　P138の写真を参考に、身の回りにあるローマ字表記を想起する。 2　P137のローマ字表を見ながら、ローマ字表記について知る。 ・ローマ字表の見方、書き表し方の決まり、ローマ字入力について理解する。 ・P135の設問に取り組む。 3　ローマ字入力に取り組む。 ・P134の設問に取り組む。 ・好きな言葉などをローマ字で入力する。	【知・技】日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、ローマ字で書いている。（(1)ウ） 【態】進んでローマ字で表記されたものを読み、学習課題に沿ってローマ字で書いたり入力したりしようとしている。